中国本土における強制労働の加害企業

当ウェブサイトで取り上げている万人坑（強制労働）の加害者（加害企業）についてまとめてみました。

それで、「加害企業は不詳・不明」としているのは、当ウェブサイトの担当者が知らないだけで、ちゃんと調べれば分かるのだと思います。また、当時の加害企業が日本の敗戦後にどのように引き継がれていったのかについても調べていません。それらの解明は今後の課題ですが、専門家や市民の皆様からの御教示・情報提供に期待しています。

内蒙古自治区

ハイラル要塞万人坑　　日本軍ハイラル要塞の建設工事　　死者２万人

１９３４年６月　日本軍（関東軍）が主管し着工

大規模な土建会社が関わっているはずだが・・・

黒龍江省

鶴崗炭鉱万人坑　　石炭採掘　　死者６万人

１９３２年８月　日本が鶴崗を占領し石炭略奪を始める。

炭鉱経営会社は鶴崗炭鉱株式会社

鶏西炭鉱万人坑　　石炭採掘　　死者数万人

１９３３年～　滴道炭鉱株式会社が経営

その後　　満洲炭鉱株式会社の傘下の密山炭鉱株式会社に経営を移管

有神谷組・大福組など幾つかの請負会社が、数多くある採炭所を管理

東寧要塞万人坑　　日本軍東寧要塞の建設工事　　死者数万人

１９３４年６月～　日本軍（関東軍）が主管し着工

大規模な土建会社が関わっているはずだが・・・

山東省莱陽の呂良玉さんは日本の大嶺組の担当者に騙され東寧に来た。

ソ満国境要塞群を物流面から支える総延長３６００キロ余の鉄道網の建設担当は満鉄

東寧の老黒山羅圏溝では、西松組・松浦組などが２万人余の労工を管理した。

吉林省

豊満ダム万人坑　　豊満ダムと豊満水力発電所の建設工事　　死者１万５０００人
　１９３７年４月に建設開始。１９４３年春に発電（送電）を始める。
　チッソが主体的にやっているが、施工や技術面で西松組や間組が参与している。

遼源炭鉱万人坑（旧称は西安炭鉱）　　石炭採掘　　死者８万人
　西安炭鉱を手に入れるため、１９１３年に日本政府（中園ら）が調査を始める。
　１９３１年　　河本大作（関東軍高級参謀）らが西安炭鉱の経営権を掌握する。
　１９３１年～　西安炭鉱株式会社を設立。河本大作が会社の総弁（総経理）に就任。
　　最初の資本は三井。
　１９３４年～　満洲炭鉱株式会社の傘下に編入され満洲炭鉱西安鉱業所になる
　西安採鉱所の事務所は現存していて、遼源工務局の施設として利用されている。

石人炭鉱万人坑　　石炭採掘　　死者１万人
　炭鉱経営会社は不詳

吉林省延辺朝鮮族自治州

板石炭鉱万人坑　　石炭採掘　　死者数千人
　１９３３年から「日本」が操業。炭鉱経営会社は不詳。

老頭溝炭鉱万人坑　　石炭採掘　　死者１万人余
　１９３３年から「日本」が操業。炭鉱経営会社は不詳。

遼寧省

撫順炭鉱万人坑　　石炭採掘　　死者２５万人
　南満洲鉄道株式会社が１９０５年から４０年間にわたり撫順と炭鉱を占領支配。
　満鉄撫順炭鉱所長：久保孚

阜新炭鉱万人坑　　石炭採掘　　死者７万人
　１９１８年　阜新にある２６カ所の石炭鉱床の開発権（採掘権）を満鉄が取得
　１９３６年　満洲炭鉱株式会社阜新鉱業所を設置し、石炭採掘を本格的に開始。

北票炭鉱万人坑　　石炭採掘　　死者３万１２００人
　１９３３年から操業。炭鉱経営会社は不詳

本溪炭鉱鉄鉱万人坑

石炭と鉄鉱石の採掘と本溪製鉄所における製鉄　　死者１３万５０００人

日露戦争に日本が勝利すると大倉財閥は直ぐに本溪に入り、

１９０５年から４０年間にわたり本溪湖煤鉄公司が炭鉱と鉄鉱を支配。

本溪湖煤鉄公司の跡地で現在操業中の本鋼電気有限責任公司の敷地内に、

本溪湖煤鉄公司の事務所だった建物（溪湖紅楼）が現存している。

弓長嶺鉄鉱万人坑　　鉄鉱石採掘　　死者１万２０００人

１９３３年から操業。鉄鉱経営会社は不詳

解放後の一時期に弓長嶺鉱業会社が操業していたが２００９年以前に倒産している。

２０１４年からは鞍鋼鉱業が万人坑施設の保全を支援している。

大石橋マグネサイト鉱山万人坑

マグネサイト採掘と耐火煉瓦製造　　死者１万７０００人

１９１７年　大石橋のマグネサイト鉱床の採掘権を満鉄が取得し採掘を開始

１９２０年　満鉄が財閥の高木陸郎（日本国土開発の創業者）に経営権を譲渡

三井物産など八企業の協力を得て高木陸郎が南満鉱業株式会社を設立。

１９３５年　新京に設立された満洲鉱業開発株式会社が南満鉱業に（巨額の）投資

金州龍王廟万人坑

関東軍６９３部隊陸軍病院と鉄道や道路を含む関連施設の建設工事　死者８０００人

１９４２年５月～　関東軍６９３部隊の土木建築事務所が工事を主管

細菌兵器の研究開発と製造のための施設と考えられている。

河北省

龍煙（龐家保）鉄鉱万人坑　　鉄鉱石採掘　　死者数不詳

軍閥の宋哲元が１９３６年に日本と「華北経済条約」を結び、龍煙鉄鉱を日本に売却

七七事変後、日本が龍煙鉄鉱を完全支配し、龍煙鉄鉱株式会社を設立

井陘炭鉱万人坑　　石炭採掘　　死者４万６０００人

１８９８年に井陘鉱務局が設立され、ドイツ企業との合弁で近代的な操業を開始。

１９３７年１０月に日本が井陘地区を占領し支配する。

１９３９年頃から貝島炭鉱（企業）が井陘炭鉱への関与を強める。

１９４０年７月に中国と日本が調印し合弁で経営することになり、ドイツは撤退。

石家庄集中営（強制収容所）万人坑　　死者２万人

１９３９年に日本軍が開設し管理した石門（石家庄）集中営（捕虜収容所）が、
１９４１年に、華北労工協会が直接管理する労働者教習所・労働者訓練所へ移行。
労工として各地に移送される前の収容者に対する訓練・労働・虐待で多数が死亡

天津市

塘沽集中営（強制収容所）万人坑　　死者１万人超

塘沽集中営が塘沽労工収容所・塘沽労工訓練所に移行し、
華北労工協会天津事務所が直接管理。
労工として各地に移送される前の収容者に対する訓練・労働・虐待で多数が死亡。

山西省

大同炭鉱万人坑　　石炭採掘　　死者６万人

満鉄が１９１８年から調査を繰り返し、華北産業開発の中心目標に据える。
１９３７年９月　日本が大同地区を占領支配
１９３８年２月　大同炭鉱の当面（臨時）の経営を蒙疆政府が満鉄に委託
１９４０年１月　満鉄と華北開発公司と蒙疆政府が出資し大同炭鉱株式会社が誕生。
大同炭鉱理事：久保孚

白家庄炭鉱万人坑　　石炭採掘　　死者数不詳

１９３３年に閻錫山が操業した炭鉱を１９３８年に「日本」が奪い取る。
炭鉱経営会社は不詳。

安徽省

淮南炭鉱万人坑　　石炭採掘　　死者数万人

１９３８年６月　日本が淮南を占領
１９３８年９月　淮南大通炭鉱の経営を日本の三菱飯家炭鉱（企業）が掌握
淮南九龍崗炭鉱の経営を日本の三菱鉱業（企業）が掌握
１９３９年４月　日華合弁淮南炭鉱株式会社を設立し大通炭鉱と九龍崗炭鉱を集約。
新会社の本部は上海。現地に淮南鉱業所＝所長は川口忠。

海南省（海南島）

石碌鉄鉱万人坑　　鉄鉱石採掘　　死者３万人

１９３９年　海南島の昌江地区（石碌鉱山などがある）を日本が占領
日本窒素肥料が石碌鉱山開発を海軍省から受命

１９４１年（？）～　日本窒素肥料が主管し石碌鉱山開発を推進
日窒鉱業株式会社・日鉄鉱業株式会社から技師を動員

１９４２年１２月：傘下の日窒海南興業株式会社に日本窒素肥料が事業を移管

八所港万人坑　　石碌鉱山で産出する鉄鉱石の搬出・搬送のための港湾整備と鉄道敷設
死者２万２０００人

石碌鉱山開発を受命した日本窒素肥料が、港湾と鉄道の建設・整備を主管。
石碌鉱山と八所港を結ぶ鉄道の敷設工事（１９４１年１０月～）と
八所港改修整備（１９３９年末～１９４２年末）は西松組が請け負う

「朝鮮村」南丁千人坑　　軍用施設建設・道路工事・井戸掘り・トンネル掘り
死者１０００人（犠牲者は、朝鮮半島から徴用された朝鮮人）

日本軍が主管？　土建企業が関わっていると思われるが・・・

田独鉱山万人坑　　鉄鉱石採掘　　死者１万人

石原産業海運（石原広一郎＝マラヤの鉄鉱業開発で実績）が海軍省から開発を受命
鉱石搬送用の軽便鉄道と楡林内港（搬出港）の整備建設は清水組に委託

１９３９年８月に鉱山開発を起工。１９４０年６月に出鉱開始。

１９４３年６月　石原産業海運は石原産業株式会社に商号変更。
傘下の石原汽船株式会社に海上輸送部門を移管。

陵水后石村万人坑　　日本軍陵水飛行場や道路の建設　　死者５０００人

地元の人たちは、建設工事の受託企業名は「株式会社」だと証言している。